
飼い慣らされた猫

シラス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

飼い慣らされた猫

【Nコード】

N4289T

【作者名】

シラス

【あらすじ】

猫が見つめる先には不思議なものもあるかもしれませんが、大部分は日常を見つめているんです。

(前書き)

とにかく創作に励もうと書き上げました。読みにくく拙い内容ですが、一読いただければ幸いです。

半年洗っていないベッドカバーからは染み込んだ汗の臭いと泥の芳醇な香りが漂う。それは飛散した毛と相まって、私の為の空間になっている。

拙い子どものふりを磨き、ゴロゴロと喉を揺らす筋肉さえ自在に動かせれば、他に必要なものはない。敢えてあげるとすれば、他に何も必要としないことだろうか。そう考えていたのは父の教えであったからだ。しかし、時代は変わったようだ。

壁の向こう側には1日中部屋に隠る男。その向こうにはよく私を訪ねてくる猫がいる部屋。なお近くからは鶏のけたたましい響きが毎朝届く。

私はここから出たことがない。厳密には出ようとしたことはないとは言えないが、投げられたゴムのわっかを追いかけた結果、敷居を越えそうになることが出ようとしたことになるのかは各々に判断を譲りたい。

私は非常に知見が乏しいため己の力のみで生き抜くことは出来ないが、この空間で最大の恩恵を授かる術を心得ている。基本は先の通りである。失念されている方はきつと朝が早いので寝ぼけておられるのだろう。

こんなところで時間を潰さずにやるべきことをおやりなさい。あなたが得るものはきつとここにはない。

さて、よく私を訪ねてくる猫によれば、最近隣の男が私とよく似た

振る舞いをしているらしい。無闇やたらに指先が痒くなって壁を掻きむしったり、主人の気を引くためにあえて主人を避けるような挙動を示すとのことだ。違うのは飯のつき方ぐらいで、寝る姿勢までそっくりだというから驚きだ。

お前は隣の男にそっくりだ。あの男は見苦しい。しかも臭いまでお前と同じだ。

そう言われて以来、習慣を改め私も敷居を跨いで社会というものを学ぶことに努めるようになった。さすがに飼慣らされた私でも、同類から見苦しいと思われるようになってしまえば、主人に見放される日も遠からずと感じたからである。その成果あってか芸に一層の深みが増したのは、食事の質を見れば明らかである。

あの日以来うちに隠り、1日中ベッドで過ごし、パソコンの近くで過ごすのをやめ、日中は外で友人と世間話をするようにしている。心なしか胴回りも薄くなり、動き安くなったと感じる今日この頃である。

隣の男は相変わらずだということだが、見苦しくても捨て去ることのない寛大な主人がいると見える。人間というものは、やけに人間に優しい生き物であると感じるのは、飼い猫だけではないだろう。

(後書き)

読了ありがとうございます。批評などありましたらぜひとも賜りたいと思いますのでよろしくお願い致します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4289t/>

飼い慣らされた猫

2011年10月5日05時10分発行